令和３年度　学校安全総合支援事業（学校安全体制の構築）の最終報告

学校名　（　竹田支援学校　）

１　学校の情報

（１）　学校規模（令和４年２月１日現在）

児童生徒数

小学部	中学部	高等部	合計
８名	２１名	２９名	５８名

教職員数

小学部	中学部	高等部	管理職・事務職員等	合計
１１名	１２名	１８名	１０名	５１名

（２）　分掌の位置づけ

・生徒指導部所属

・防災教育コーディネーター１名　防災教育担当教員２名（令和３年度）

（３）　地域環境

竹田市は、阿蘇、久住、祖母の山地に囲まれた盆地（低地）にある。祖母山系を源とする大野川・緒方川、くじゅう連山を源とする稲葉川・芦川をはじめ、その支流が市の西から東に走り、大野川と大分川の源流地帯を形成している。

本校の近隣には複数の河川（玉来川、稲葉川、大野川等）があり、学校の敷地のすぐ西側には矢倉川が流れている。学校の敷地の一部は急傾斜地崩壊危険区域に指定されている。実際に平成２年と平成２４年の水害では、校舎への浸水等の被害があった。校区は竹田市、豊後大野市と広域であり、その範囲内に急傾斜地（特別警戒区域）や家屋倒壊等氾濫想定区域等が存在している。

２　取組のポイント

本校は立地上、今後も災害に直面するおそれがあるため、学校の危機管理体制を整えておく必要がある。また、児童生徒が家庭や地域で過ごしている時に発災した場合でも、主体的に避難行動がとれるように、保護者や地域の関係機関と連携を図りつつ防災意識を高める必要もある。そのため、防災教育コーディネーターを中心として、以下の取組を行う。

①防災教育として、防災の視点を取り入れた授業実践、居住地避難所の確認等を行い、実践記録をまとめる。発災時に、児童生徒が自分の身を守ることができるようになることを目指す。

②保護者に、防災の視点を取り入れた授業、引渡し訓練、防災研修等への協力を依頼する。児童生徒とともに学ぶことを通じて保護者の防災意識も高める。

③教職員の災害に対する危機管理意識の向上や校内体制の整備を図るために、防災研修を実施する。

教職員が、防災教育の進め方・考え方についての防災研修や各種避難訓練・シミュレーションを通じて知識・指導力を身につけていき、さらに実践的な対応力を高めていくこと目指して取り組む。

④地域の関係機関や地域住民との協議を行い、豪雨等による災害発生時における連携の在り方や体制づくりをすすめる。

３　具体的な取組

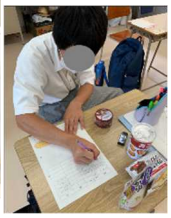
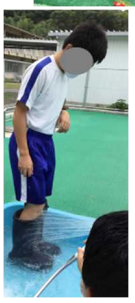
実施時期	実施事項
５月１１日	第１回防災教育モデル実践事業に係る運営委員会
６月１４日	第２回防災教育モデル実践事業に係る運営委員会
６月３０日	避難訓練（水災害）校外避難 職員研修①「学校防災の基礎」 講師：土木建築部　河川課　防災班　加藤貴則　主幹（総括）
７月　９日	第３回防災教育モデル実践事業に係る運営委員会
７月１４日	高等部緊急引き渡し訓練
７月１５日	小学部緊急引き渡し訓練
７月１６日	中学部緊急引き渡し訓練
７月２０日	第１回防災教育実践委員会
７月２６日	防災教育モデル実践事業検討会議（大分県教育センター）
７月２８日	職員研修②「スクールバス緊急時対応研修」 講師：大分県防災活動支援センター　川村 正人　理事長
８月１８日	先進校視察（熊本県立天草支援学校）→リモートに変更 谷脇　詩織　教頭　　岩下　祐紀　教諭　　安藤　彰朗　教諭
８月１９日	先進校視察（熊本県立小国支援学校）→リモートに変更

	森　一郎　　防災主任
８月２７日	職員研修③「職員研修避難後の生活について」 講師：大分大学減災・復興デザイン教育研究センター 防災コーディネーター　板井　幸則　先生
８月２０日	第４回防災教育モデル実践事業に係る運営委員会
９月２４日	避難訓練（水災害による垂直避難および待機訓練）
１０月１１日	第５回目防災教育モデル実践事業に係る運営委員会
１０月２６日	第２回防災教育実践委員会
１１月１８日	第６回目防災教育モデル実践事業に係る運営委員会
１２月　９日	公開研究発表会
１２月２２日	第７回目防災教育モデル実践事業に係る運営委員会
１月２２日	第８回目防災教育モデル実践事業に係る運営委員会
２月　３日	第３回防災教育実践委員会

●授業

学部	教科等	題材名	
小学部	学活	『ヘルメットをかぶってみよう』	
	学活	『簡易トイレを作ろう』	
	学活	『身を守るポーズ』	
	学活	『長靴をはいて水の中をあるいてみよう』	
	学活	『和式トイレの練習をしよう』	

学部	教科等	題材名	
中学部	生活単元学習	『防災意識を高めよう』	
	生活単元学習	『水害から身を守るにはどうしたらよいか考えよう』	
	国語	『わが家の防災対策を紹介しよう』	

学部	教科等	題材名	
高等部	家庭科	『防災意識を高めよう』	
	数学	『備蓄食料のカロリーを計算しよう』	
	生活単元学習	『ダムの見学』	
	生活単元学習	『ひも靴と長靴の違いを体験しよう』	
	家庭科	『備蓄バッグを作ろう』	

４　取組における成果と課題

（１）成果

・児童生徒と教職員が、災害のリスクや防災について、自分たちのおかれている状況に関心を持つことができた。
・年間をとおして授業実践を積み重ねることで、児童生徒の防災に対する関心を高めることができた。また、授業と訓練を組み合わせることで迅速な避難行動ができた。
・児童生徒が災害に対するさまざまな体験をすることで、学校および家庭生活の幅の広がりにつながった。
・児童生徒が訓練後すぐに振り返りシートへの記入をすることで、振り返りの機会を確実に設けることができた。また、振り返りシートを個人ごとにファイリングすることで、次年度に活用できるようにした。
・教職員ひとりひとりが問題意識、当事者意識を持つことの必要性に気づくことができ、避難訓練に対する意識の変化や向上が見られた。職員研修後のアンケートでは、１回目５０％、２回目８０％、３回目９５％以上の教職員が、「防災に対する意識がとても向上した」と回答している。
・教職員が児童生徒の実態をより詳細にとらえることができた。
・教職員の振り返りをアンケート形式から学部ごとに意見を出し合う形式に変えたことで、情報の共有や具体的な改善が速やかにできるようになった。

（２）課題

・継続して取り組むことができるような仕組みづくり。
・年間指導計画への反映。
・緊張感を持った訓練の必要性。
・全学部一斉引き渡しへの対応。

５　今後の取組の見通し

・２月　授業実践事例集の作成
・３月　学校安全計画・危機管理マニュアルの見直し